

# 景気ウォッチャー調査

## Economy Watchers Survey

平成 29 年 8 月調査結果

平成 29 年 9 月 8 日



内閣府政策統括官  
(経済財政分析担当)

## 今月の動き (2017年8月)

8月の現状判断DI(季節調整値)は、前月に対し横ばいの49.7となった。家計動向関連DIは、飲食関連が上昇したものの、サービス関連等が低下したことから低下した。企業動向関連DIは、製造業が上昇したことから上昇した。雇用関連DIについては、上昇した。

8月の先行き判断DI(季節調整値)は、前月差0.8ポイント上昇の51.1となった。

雇用関連DIは低下したものの、家計動向関連DI及び企業動向関連DIは上昇した。

なお、原数値で見ると、現状判断DIは前月差1.4ポイント低下の49.6となり、先行き判断DIは前月差0.5ポイント低下の50.1となった。

今回の調査結果に示された景気ウォッチャーの見方は、「持ち直しが続いている。先行きについては、人手不足や海外情勢に対する懸念もある一方、引き続き受注、設備投資等への期待がみられる」とまとめられる。

## 目 次

調査の概要	2
利用上の注意	4
D I の算出方法	4
調査結果	5
I . 全国の動向	6
1 . 景気の現状判断D I ( 季節調整値 )	6
2 . 景気の先行き判断D I ( 季節調整値 )	7
( 参考 ) 景気の現状判断D I ・先行き判断D I ( 原数値 )	8
II . 各地域の動向	9
1 . 景気の現状判断D I ( 季節調整値 )	9
2 . 景気の先行き判断D I ( 季節調整値 )	9
( 参考 ) 景気の現状判断D I ・先行き判断D I ( 原数値 )	10
III . 景気判断理由の概要	11
( 参考 1 ) 景気の現状水準判断D I	24
( 参考 2 ) 区分変更に伴う参考D I 等	26

## 調査の概要

### 1. 調査の目的

地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域ごとの景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とすることを目的とする。

### 2. 調査の範囲

#### (1) 対象地域

北海道、東北、北関東、南関東、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄の11地域を対象とする。各地域に含まれる都道府県は以下のとおりである。(なお、平成12年1月調査の対象地域は、北海道、東北、東海、近畿、九州の5地域、平成12年2月調査から9月調査までの対象地域は、これら5地域に関東を加えた6地域である。)

地域	都道府県	
北海道	北海道	
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、新潟	
関東	北関東	茨城、栃木、群馬、山梨、長野
	南関東	埼玉、千葉、東京、神奈川
東海	静岡、岐阜、愛知、三重	
北陸	富山、石川、福井	
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	
四国	徳島、香川、愛媛、高知	
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島	
沖縄	沖縄	
全国	上記の計	

平成28年4月調査より、南関東のうち東京都分の別掲を開始。

平成28年10月調査より、「甲信越」(新潟、山梨、長野)、「東北(新潟除く)」、「北関東(山梨、長野除く)」を参考掲載。

#### (2) 調査客体

家計動向、企業動向、雇用等、代表的な経済活動項目の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種の適当な職種の中から選定した2,050人を調査客体とする。調査客体の地域別、分野別の構成については、「III. 景気ウォッチャー(調査客体)の地域別・分野別構成(36頁)」を参照のこと。

### 3. 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断(方向性)
- (2) (1)の理由
- (3) (2)の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断(方向性)
- (5) (4)の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断(水準)

### 4. 調査期日及び期間

調査は毎月、当月時点であり、調査期間は毎月25日から月末である。

## 5. 調査機関及び系統

本調査業務は、内閣府が主管し、下記の「取りまとめ調査機関」に委託して実施している。各調査対象地域については、地域ごとの調査を実施する「地域別調査機関」が担当しており、「取りまとめ調査機関」において地域ごとの調査結果を集計・分析している。

(取りまとめ調査機関)		三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
(地域別調査機関)	北海道	株式会社 北海道二十一世紀総合研究所
	東北	公益財団法人 東北活性化研究センター
	北関東	株式会社 日本経済研究所
	南関東	株式会社 日本経済研究所
	東海	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
	北陸	一般財団法人 北陸経済研究所
	近畿	りそな総合研究所株式会社
	中国	公益社団法人 中国地方総合研究センター
	四国	四国経済連合会
	九州	公益財団法人 九州経済調査協会
	沖縄	一般財団法人 南西地域産業活性化センター

## 6. 有効回答率

地域	調査客体	有効回答客体	有効回答率	地域	調査客体	有効回答客体	有効回答率
北海道	130人	115人	88.5%	近畿	290人	252人	86.9%
東北	210人	194人	92.4%	中国	170人	166人	97.6%
北関東	200人	192人	96.0%	四国	110人	91人	82.7%
南関東	330人	311人	94.2%	九州	210人	186人	88.6%
東京都	149人	144人	96.6%	沖縄	50人	36人	72.0%
東海	250人	229人	91.6%	全国	2,050人	1,869人	91.2%
北陸	100人	97人	97.0%				

### (参考) 調査客体数及び対象地域の推移

調査開始(平成12年1月)以降の調査客体数及び対象地域の推移は以下のとおり。

- 平成12年1月調査は500人(北海道、東北、東海、近畿、九州)
- 平成12年2～9月調査は600人(北海道、東北、関東、東海、近畿、九州)
- 平成12年10月～平成13年7月調査は1,500人(全国11地域)
- 平成13年8月調査以降は2,050人(全国11地域)

### 利用上の注意

1. 分野別の表記における「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」は、各々家計動向関連業種の景気ウォッチャーによる景気判断、企業動向関連業種の景気ウォッチャーによる景気判断、雇用関連業種の景気ウォッチャーによる景気判断を示す。
2. 表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、計と内訳は一致しない場合がある。

### DIの算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じて、DIを算出している。

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0 . 7 5	+ 0 . 5	+ 0 . 2 5	0

## 調 査 結 果

### I . 全国の動向

- 1 . 景気の現状判断D I ( 季節調整値 )
- 2 . 景気の先行き判断D I ( 季節調整値 )  
( 参考 ) 景気の現状判断D I ・先行き判断D I ( 原数値 )

### II . 各地域の動向

- 1 . 景気の現状判断D I ( 季節調整値 )
- 2 . 景気の先行き判断D I ( 季節調整値 )  
( 参考 ) 景気の現状判断D I ・先行き判断D I ( 原数値 )

### III . 景気判断理由の概要

- ( 参考 1 ) 景気の現状水準判断D I  
( 参考 2 ) 区分変更に伴う参考D I 等

( 備考 )

- 1 . 「III . 景気判断理由の概要 全国 ( 11 頁 ) は、「現状」、「先行き」ごとに区分した3分野 ( 「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」 ) に該当する地域の特徴的な判断理由を選択し、5つの回答区分 ( 「良」、「やや良」、「不変」、「やや悪」、「悪」 ) ごとに判断が良い順に掲載した。
- 2 . 「現状判断の理由別 ( 着目点別 ) 回答者数の推移」 ( 12 頁 ) は、全国の「現状判断」の回答のうち3分野それぞれについて、5つの回答区分の中で回答者数の多い上位3区分 ( 雇用関連は上位2区分 ) の判断理由として特に着目した点について、直近3か月分の回答者数を掲載した。
- 3 . 13 ~ 23 頁は、各地域の景気判断理由の要約である。そのうち、「現状」欄は、地域の「現状判断」の回答のうち、3分野それぞれについて、5つの回答区分の中で回答者数が多かった上位3区分 ( 雇用関連は上位2区分 ) を上から順に掲載している。掲載されている各コメントは、それら上位回答区分の中における代表的な回答である。「その他の特徴コメント」欄は、「判断の理由」欄に掲載されたもの以外で、特徴と考えられるコメントを掲載した。また、「先行き」欄は3分野それぞれについて、5つ回答区分の中で回答者数が多かった上位2区分 ( 雇用関連は上位1区分 ) を上から順に掲載している。掲載されている各コメントは、それらにおける代表的な回答である。なお、「その他の特徴コメント」欄は「現状」と同様である。

## I. 全国の動向

### 1. 景気の現状判断D I（季節調整値）

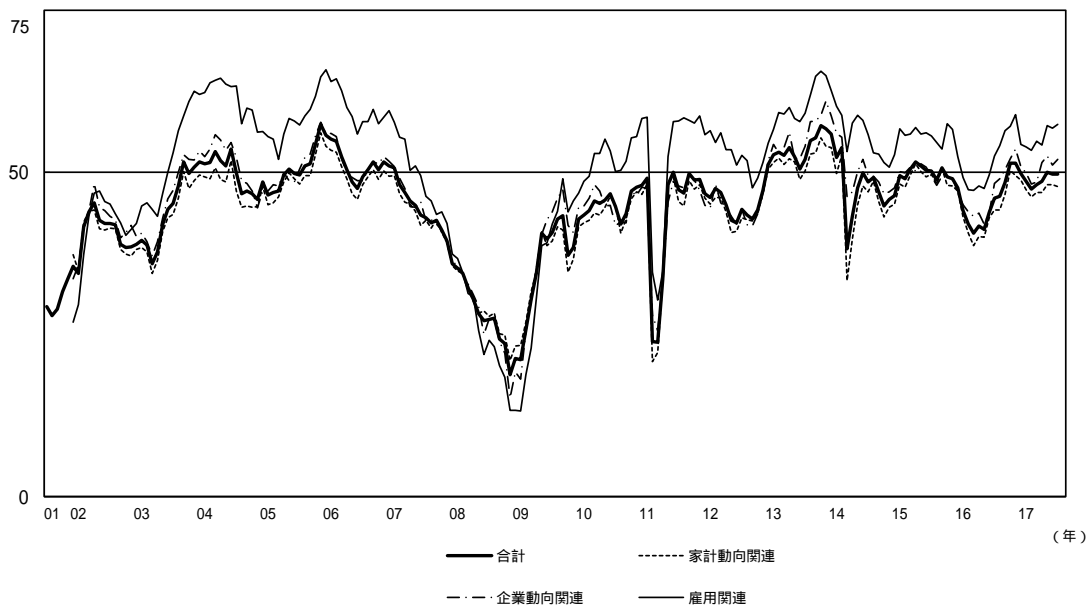
3か月前と比較しての景気の現状に対する判断D Iは、49.7となった。家計動向関連のD Iは低下したものの、企業動向関連、雇用関連のD Iが上昇したことから、前月に対し横ばいとなった。

図表1 景気の現状判断D I（季節調整値）

(D I)	年 2017							(前月差)
	月 3	4	5	6	7	8		
合計	47.4	48.1	48.6	50.0	49.7	49.7	(0.0)	
家計動向関連	46.2	46.9	46.9	48.1	48.1	47.8	(-0.3)	
小売関連	44.9	45.3	45.1	47.3	47.1	46.9	(-0.2)	
飲食関連	44.1	47.4	46.8	46.6	46.2	49.1	(2.9)	
サービス関連	49.8	49.9	50.2	49.4	50.2	49.0	(-1.2)	
住宅関連	43.7	46.6	47.8	50.5	49.9	48.9	(-1.0)	
企業動向関連	48.2	48.5	51.5	52.5	51.1	52.0	(0.9)	
製造業	47.7	48.2	51.0	52.1	50.5	52.8	(2.3)	
非製造業	48.7	48.9	52.0	53.1	51.6	51.4	(-0.2)	
雇用関連	53.4	54.8	54.2	57.2	56.8	57.4	(0.6)	

(D I)

図表2 景気の現状判断D I（季節調整値）





## 2. 景気の先行き判断D I (季節調整値)

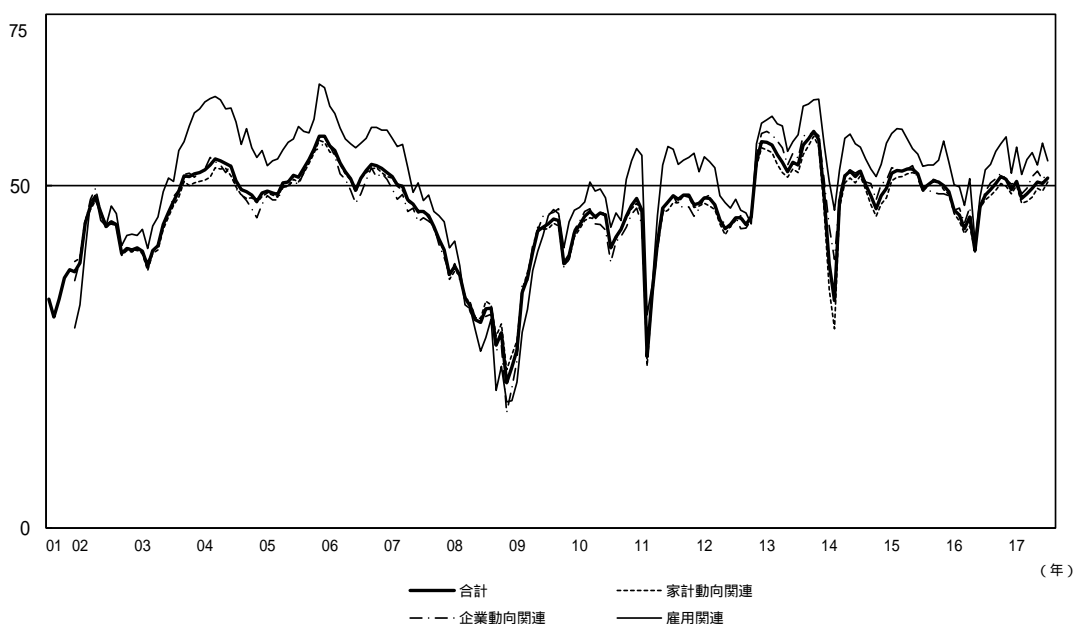
2～3か月先の景気の先行きに対する判断D Iは、51.1となった。雇用関連のD Iが低下したものの、家計動向関連、企業動向関連のD Iが上昇したことから、前月を0.8ポイント上回った。

図表3 景気の先行き判断D I (季節調整値)  
(D I) 年 2017

	月	3	4	5	6	7	8	(前月差)
合計		48.1	48.8	49.6	50.5	50.3	51.1	(0.8)
家計動向関連		47.4	47.7	48.3	49.6	49.2	50.5	(1.3)
小売関連		45.6	46.9	47.6	48.6	48.7	50.1	(1.4)
飲食関連		45.3	44.8	48.4	50.7	49.2	50.5	(1.3)
サービス関連		51.3	50.2	49.7	51.6	51.1	51.9	(0.8)
住宅関連		47.2	46.7	48.3	47.4	45.3	47.4	(2.1)
企業動向関連		48.8	49.6	51.3	52.1	50.9	51.8	(0.9)
製造業		49.3	50.1	51.7	52.0	52.0	53.7	(1.7)
非製造業		48.2	49.7	51.3	52.5	50.0	50.3	(0.3)
雇用関連		51.6	53.8	54.8	53.0	56.2	53.6	(-2.6)

(D I)

図表4 景気の先行き判断D I (季節調整値)



(参考) 景気の現状判断D I・先行き判断D I (原数値)

(現状判断)

図表5 景気の現状判断D I  
(D I) 年 2017

	月	3	4	5	6	7	8
合計		50.6	50.4	50.1	49.9	51.0	49.6
家計動向関連		49.7	49.5	48.9	48.2	49.8	47.9
小売関連		48.0	47.7	47.9	47.8	49.2	47.2
飲食関連		49.7	51.9	48.6	46.5	47.2	48.4
サービス関連		53.4	52.1	50.8	48.8	51.7	49.0
住宅関連		47.1	50.3	49.3	51.0	49.0	49.0
企業動向関連		50.6	50.3	51.2	52.5	52.3	51.2
製造業		50.4	49.9	49.9	51.2	51.4	51.8
非製造業		51.0	50.8	52.4	53.9	53.2	50.8
雇用関連		56.7	56.3	55.5	55.6	56.4	57.2

図表6 構成比

年	月	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	D I
2017	6	1.6%	21.7%	55.5%	17.2%	4.0%	49.9
	7	1.9%	23.7%	54.2%	16.9%	3.3%	51.0
	8	1.9%	19.5%	56.8%	18.6%	3.2%	49.6

(先行き判断)

図表7 景気の先行き判断D I  
(D I) 年 2017

	月	3	4	5	6	7	8
合計		49.0	50.4	51.5	51.5	50.6	50.1
家計動向関連		48.8	49.9	50.7	50.7	49.2	49.1
小売関連		47.5	49.5	50.3	50.0	48.2	48.3
飲食関連		46.9	47.3	49.7	51.1	49.4	49.2
サービス関連		52.0	51.5	51.7	52.4	51.6	51.0
住宅関連		48.1	48.7	50.3	48.7	46.1	47.4
企業動向関連		48.5	50.2	52.2	52.9	51.7	51.6
製造業		48.8	51.5	53.1	53.3	54.3	53.9
非製造業		48.1	49.7	52.0	52.9	49.6	49.7
雇用関連		51.4	54.2	54.9	53.7	57.4	53.9

図表8 構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	D I
2017	6	1.7%	22.0%	60.1%	13.2%	3.0%	51.5
	7	1.4%	20.1%	60.5%	15.2%	2.7%	50.6
	8	1.4%	19.9%	59.3%	16.5%	2.9%	50.1

## II. 各地域の動向

### 1. 景気の現状判断D I (季節調整値)

前月と比較しての現状判断D I (各分野計)は、全国 11 地域中、7 地域で上昇、4 地域で低下であった。最も上昇幅が大きかったのは沖縄(10.3ポイント上昇)で、最も低下幅が大きかったのは東北(3.9ポイント低下)であった。

図表9 景気の現状判断D I (各分野計)(季節調整値)

(D I)	年 月	2017 3	4	5	6	7	8	(前月差)
全国		47.4	48.1	48.6	50.0	49.7	49.7	(0.0)
北海道		48.0	44.8	50.7	49.3	50.6	51.5	(0.9)
東北		45.3	46.2	45.4	45.3	49.0	45.1	(-3.9)
関東		46.3	47.5	47.8	49.0	49.3	50.2	(0.9)
北関東		44.4	46.4	46.7	47.2	47.4	48.4	(1.0)
南関東		47.4	48.1	48.5	50.1	50.5	51.3	(0.8)
東京都		46.3	49.3	49.8	51.0	52.6	53.2	(0.6)
東海		48.9	49.4	50.0	52.7	51.4	49.9	(-1.5)
北陸		50.2	51.6	49.4	50.3	52.1	52.5	(0.4)
近畿		48.3	47.9	50.1	51.7	52.1	50.6	(-1.5)
中国		48.1	47.8	49.2	49.4	49.4	47.3	(-2.1)
四国		47.0	46.1	44.8	49.6	49.1	51.4	(2.3)
九州		45.6	49.9	47.8	50.0	46.3	49.3	(3.0)
沖縄		56.3	51.4	53.9	49.4	47.4	57.7	(10.3)

### 2. 景気の先行き判断D I (季節調整値)

前月と比較しての先行き判断D I (各分野計)は、全国 11 地域中、8 地域で上昇、3 地域で低下した。最も上昇幅が大きかったのは北関東(3.2ポイント上昇)で、最も低下幅が大きかったのは沖縄(4.7ポイント低下)であった。

図表10 景気の先行き判断D I (各分野計)(季節調整値)

(D I)	年 月	2017 3	4	5	6	7	8	(前月差)
全国		48.1	48.8	49.6	50.5	50.3	51.1	(0.8)
北海道		48.1	48.0	49.3	50.6	48.8	51.8	(3.0)
東北		47.4	46.4	46.7	49.1	48.8	48.2	(-0.6)
関東		48.4	49.5	49.8	50.8	49.3	50.9	(1.6)
北関東		49.3	50.1	50.6	51.2	47.2	50.4	(3.2)
南関東		47.9	49.1	49.2	50.6	50.5	51.3	(0.8)
東京都		48.1	50.3	52.2	52.1	52.7	52.7	(0.0)
東海		47.8	48.2	49.4	49.7	50.0	50.6	(0.6)
北陸		47.9	49.4	52.2	51.9	52.1	52.7	(0.6)
近畿		48.6	49.7	51.5	51.9	49.2	50.0	(0.8)
中国		48.8	51.6	50.0	51.7	53.2	53.3	(0.1)
四国		46.3	44.9	48.7	51.5	53.3	52.1	(-1.2)
九州		50.4	50.8	49.0	49.4	50.8	51.3	(0.5)
沖縄		52.5	53.7	49.8	49.3	58.4	53.7	(-4.7)

(参考) 景気の現状判断D I ・先行き判断D I (原数値)

(現状判断)

図表 11 景気の現状判断D I (各分野計)(原数値)

(D I)	年	2017					
	月	3	4	5	6	7	8
全国		50.6	50.4	50.1	49.9	51.0	49.6
北海道		50.2	47.3	51.5	51.3	53.7	53.3
東北		49.1	48.3	47.9	46.5	50.0	45.7
関東		49.3	50.6	49.9	49.6	50.8	49.8
北関東		46.8	49.3	48.7	48.0	50.3	48.4
南関東		50.8	51.3	50.6	50.6	51.2	50.6
東京都		49.8	52.7	52.8	51.7	53.9	51.9
東海		51.7	51.9	50.8	51.7	52.0	49.0
北陸		51.3	53.0	50.5	50.0	50.8	51.8
近畿		51.7	50.7	51.0	51.8	53.2	50.7
中国		51.5	49.6	50.9	49.8	50.5	47.6
四国		50.8	48.6	45.8	49.4	50.6	50.0
九州		49.5	51.6	50.0	49.3	47.8	49.1
沖縄		60.1	51.3	53.5	47.4	50.0	56.9

(先行き判断)

図表 12 景気の先行き判断D I (各分野計)(原数値)

(D I)	年	2017					
	月	3	4	5	6	7	8
全国		49.0	50.4	51.5	51.5	50.6	50.1
北海道		50.2	51.8	53.0	52.9	49.6	49.8
東北		48.2	47.3	48.3	50.1	48.8	47.0
関東		49.3	50.8	51.8	51.9	49.9	50.0
北関東		49.9	51.1	52.4	52.1	48.4	48.6
南関東		48.9	50.6	51.4	51.8	50.7	50.9
東京都		50.3	52.7	54.5	53.8	52.9	52.3
東海		48.0	50.3	52.2	51.3	50.5	49.8
北陸		49.5	51.1	54.3	52.2	52.1	52.1
近畿		48.8	50.0	51.3	51.7	48.5	49.0
中国		49.3	52.2	51.8	51.8	53.2	52.3
四国		45.7	46.1	50.0	52.0	53.4	51.6
九州		50.1	51.6	51.2	50.5	51.8	51.7
沖縄		54.1	53.8	50.7	50.0	57.7	52.8

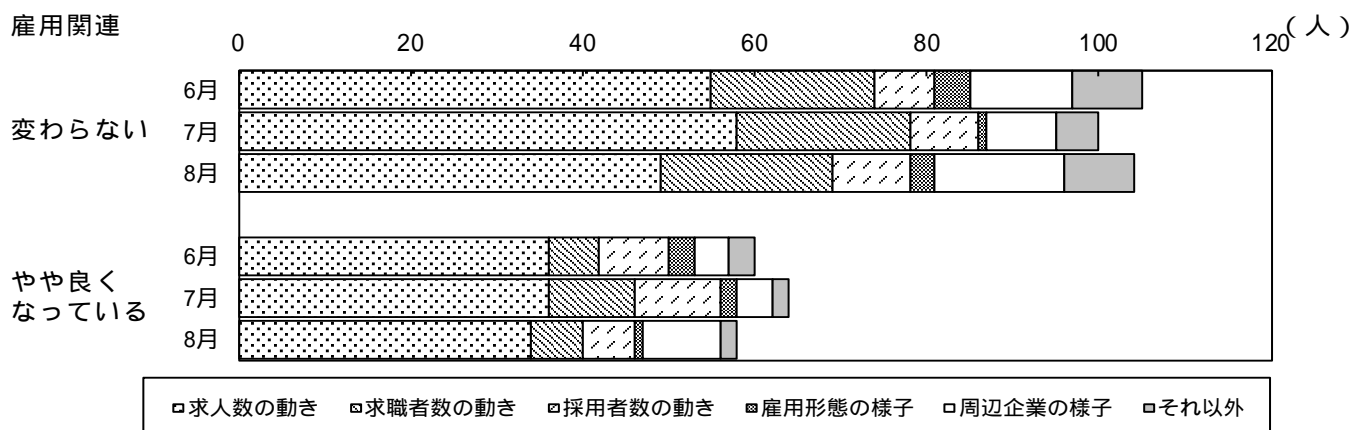
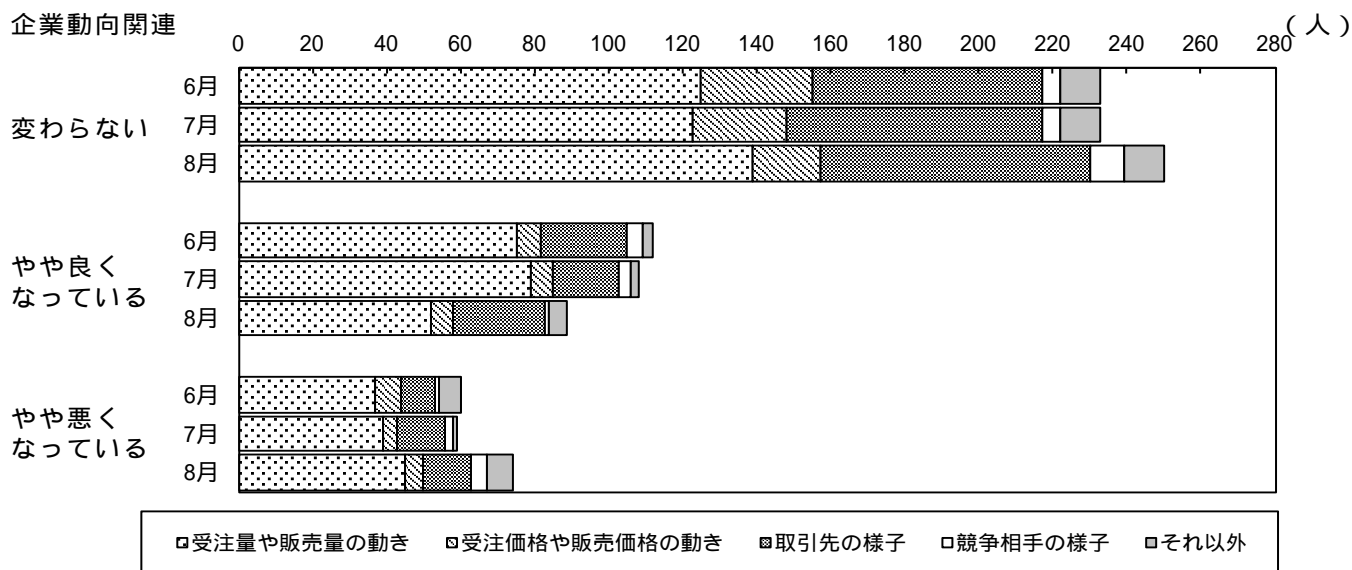
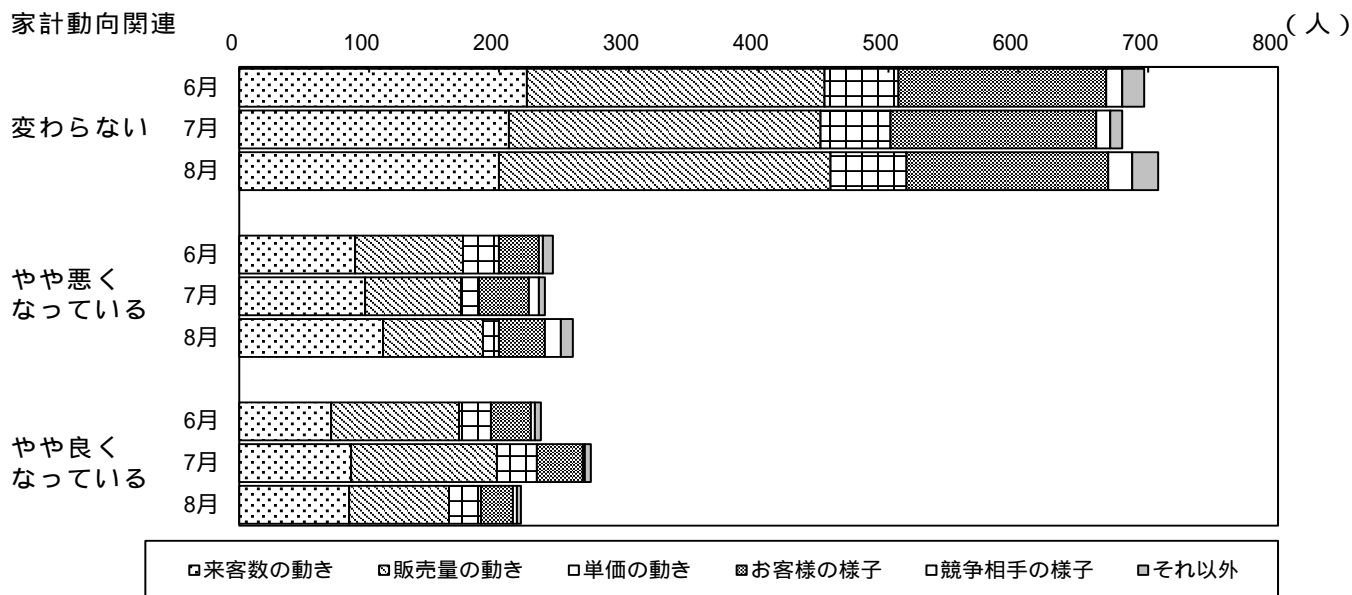
### III. 景気判断理由の概要

全国

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

	分野	判断	特徴的な判断理由
現状	家計 関連 動向		<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、富裕層を中心とした高額商品の動きが良い。また、客単価が高いインパウンド消費も継続的に伸びている(近畿=百貨店)</li> <li>8月は開店と同時に満席になり、午後3時ごろまで満席が続いている。売上も前年比プラス3%とようやく前年を上回るようになった。日中は子ども連れの観光客など、家族客が多く、夕方以降は年齢層の高い客が目立つ。また、外国人客もちらほらとみられる(北海道=高級レストラン)</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>今月はとにかく天候が悪く、来客数が減少している。それに伴い売上も3~4%落ち込んでいる(東北=コンビニ)</li> <li>宿泊間際の予約が全く伸びなかった。梅雨明けからの長雨やゲリラ豪雨と、この夏は悪天候に影響を受けている(北関東=観光型ホテル)</li> </ul>
	企業 動向 関連		<ul style="list-style-type: none"> <li>例年8月の受注はお盆休みの影響で落ち込むが、今年は前月と同じ、もしくはそれ以上の見込みである(九州=一般機械器具製造業)</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>全国の1日当たりの取扱物量が、お盆明けから減少しており、3か月前にはなかった傾向がみられる。8月は閑散期ではあるが、例年にはない傾向にある(東海=輸送業)</li> </ul>
	雇用 関連		<ul style="list-style-type: none"> <li>製造業を中心として求人数が増加傾向にあり、求人倍率も高水準で推移している。また、企業から人手が足りないとの声も多く聞いている(北関東=職業安定所)</li> </ul>
先行き	家計 動向 関連		<ul style="list-style-type: none"> <li>天候不順による一時的な売上低下が改善されれば、前年と同程度の売上傾向で推移する(南関東=コンビニ)</li> <li>軽自動車の人気車種のモデルチェンジが予定されているため、大いに期待している(東北=乗用車販売店)</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>マイホーム建築費や土地価格が値上がりしているなか、住宅ローン金利が低く推移しているため、住宅展示場への来場者数は前年同月比で増えている(沖縄=住宅販売会社)</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>関東方面がずっと雨であったため、野菜の値上がりが続く可能性もあり、その場合は厳しい(近畿=スーパー)</li> </ul>
	企業 動向 関連		<ul style="list-style-type: none"> <li>受注先工場の工事関係で、受注量が増え生産量が増加している(九州=精密機械器具製造業)</li> <li>昨今、豪雨など自然災害が続くなかで、雨水対策などの設備投資を優先する企業が増えており、発注額も増えてきている。また、相変わらず人手不足が続いており、人件費が上がるにつれ見積額も上がっているのが現状である(南関東=建設業)</li> </ul>
	雇用 関連		<ul style="list-style-type: none"> <li>求人があっても求職者数が少ないため、マッチングの成立が難しい(北陸=人材派遣会社)</li> </ul>

図表13 現状判断の理由別（着目点別）回答者数の推移

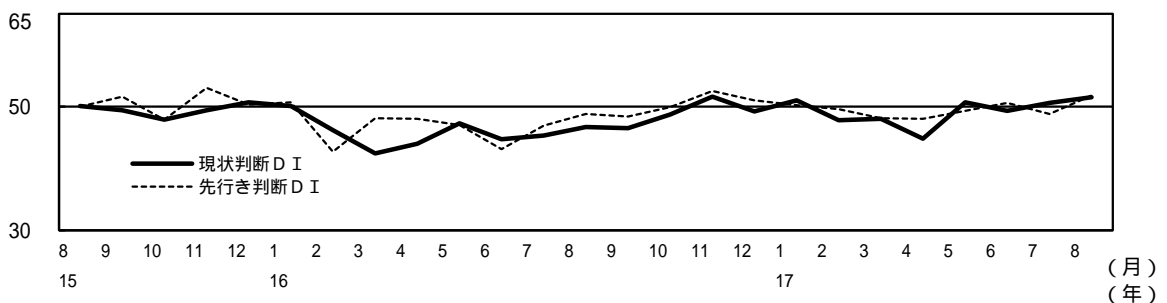


1. 北海道

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・様々なイベント施策を展開しているが、来場者数が前年と変わらない(乗用車販売店)。
			・商品単価が上がり、それに伴い客単価も上昇している。特に付加価値の高い商材の動向が良い(スーパー)。
			・8月は繁忙期で、例年、利用乗降客数が最も多くなる月であるが、今年は天候不良が続いたことで利用乗降客数が激減した。8月26日時点の利用乗降客数は前年比で76.3%、前々年比で84.3%であった(観光名所)。
	企業 動向 関連		・百貨店などの小売業での業績が低調である。構造的な問題に加えて、最近の天候不順が影響している(家具製造業)。
			・節約志向は根強いものの、買換え需要で家電、自動車販売が伸びているなど、個人消費は底堅さを増している。外国人観光客による消費と公共投資も好調を維持している。道内景気は緩やかな回復が続いており、3か月前と比べてやや良くなっている(金融業)。
	雇用 関連		・周りの企業から受注価格が折り合わず失注するケースが増えているとの話を聞く(その他サービス業[ソフトウェア開発])。
			・企業の求人意欲は強いが、人材不足の影響で求人への応募数が少なく、人材確保に苦慮している(求人情報誌製作会社)。
	その他の特徴 コメント		・住宅関連業界での動きがやや活発になってきている。また、観光客の入込が順調に推移していることで、飲食店を始めとするサービス業の業況も上向いてきている(新聞社[求人広告])。
			：8月は開店と同時に満席になり、午後3時ごろまで満席が続いている。売上も前年比プラス3%とようやく前年を上回るようになった。日中は子ども連れの観光客など、家族客が多く、夕方以降は年齢層の高い客が目立つ。また、外国人客もちらほらとみられる(高級レストラン)。 ：8月は天候が良くなかったため、来客数が伸び悩んだ。夏物家電の売上が落ち込み、盆需要も例年ほどの売上ではなかった(家電量販店)。
	分野	判断	判断の理由
家計 動向 関連		・8月の数値だけを見ると、好転の兆しがうかがえるが、はっきりとした景気回復傾向と判断するにはまだ材料不足であるため、今後も大きくは変わらない(百貨店)。	
		・お盆を過ぎてから、予約状況が少なめで推移しており、問い合わせ件数も若干少なめであることから、今後についてはやや悪くなる(タクシー運転手)。	
企業 動向 関連		・今後の傾向としては、例年のように冬期間に入る前まで、不動産関連や建物関連における取引が若干増加することになる(司法書士)。	
		・8月は他社の夏物商材に小売店の棚割で良い場所を取られたが、秋には元に戻っていることが見込まれる(食料品製造業)。 ・今後の業績について、これまでよりも慎重な数値を掲げる企業が身の回りで増加しているため、今後についてはやや悪くなる(通信業)。	
雇用 関連		・月間有効求職者数が前年を下回り、月間有効求人数が前年を上回る傾向が今後も続く(職業安定所)。	
その他の特徴 コメント		：今後、北朝鮮問題が解決することになれば、株式市況が暴騰することになり、建築市場も大いに盛り上がる(住宅販売会社)。 ：秋物商材など、先物の稼働が鈍いことから、このまま冬まで客の財布のひもの固い状況が続く(衣料品専門店)。	

( D I ) 図表14 現状・先行き判断D I (北海道)の推移(季節調整値)



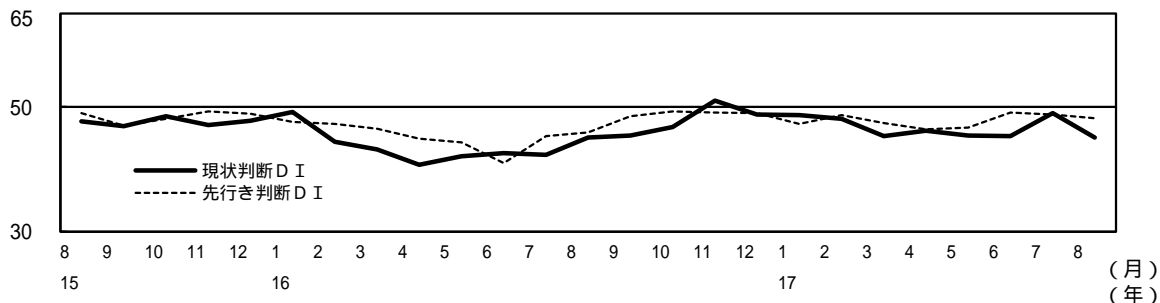
2. 東北

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

		分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連			・無料のサービスを好むなど、客からは購買意欲があまりうかがえない(観光名所)。
				・今月とはとにかく天候が悪く、来客数が減少している。それに伴い売上も3~4%落ち込んでいる(コンビニ)。
				・宿泊部門は好調を継続している。4~5月はインパウンド客が多いためであったが、今月はスポーツ関係の大会が目白押しであり、加えて製菓関係の会合が非常に多く、一般宴会や宿泊の数字を押し上げている(都市型ホテル)。
	企業 動向 関連			・地域格差、業界格差が見受けられる。東日本大震災後、再建などの報道はあるものの、そもそも人口が戻らないため、特に食料関係の需要が戻っていない(その他企業[企画業])。
				・需要の減少に加えて、天候不順や集中豪雨により出荷に影響が出ている地区もある。また、長雨や集中豪雨の影響が農作物や地域経済に与える影響も懸念している(窯業・土石製品製造業)。
	雇用 関連			・今年度発注の公共工事の受注が確定してきており、年度初めより景気は若干上向きの状況となっている(建設業)。
				・新規求職者数の前年同月比に大きな動きはなく、月間有効求職者数も同様である。また、新規求職者の求職理由にも大きな変化はない(職業安定所)。
	その他の特徴 コメント		・求職者は順調に増加している。企業の採用難易度が高止まりで推移しているため、人材サービスを活用するケースが増えてきている(人材派遣会社)。 ：今月は長く低迷が続いていた婦人服に回復の兆しがみられており、ミドルからシニアにかけての顧客層の売上が伸びている。また、気温が低いこともあり初秋物に動きがみられている。食品に関しても、七夕からお盆商戦にかけて土産品を中心に大きく売上を伸ばしている(百貨店)。 ×：記録的な長雨がお盆を含んだ夏休み期間を直撃しており、来客数が前年よりも25%も下回っている(遊園地)。	
先行き	家計 動向 関連	分野	判断	判断の理由
				・北朝鮮問題などの世界情勢不安はあるが、企業の業績は良いと聞いている。景気の状態としてはあまり変わらないのではないかと(一般レストラン)。
	企業 動向 関連			・競合店の出店や改装により、厳しい状況は続く。また、消費の節約志向も更に高まり、必要な物しか買わない傾向が続くとみている(スーパー)。
				・数か月前に比べて受注量は増加傾向にあるものの、これ以上の好材料はみつからない。そのため、現状維持が続くとみている(金属工業協同組合)。
	雇用 関連			・雨天が続く、店頭売が大変悪い状態が続くことを懸念している(繊維工業)。
				・採用計画において、増員や新規採用を実施する企業は少なく、年度当初から大きな変化はみられない(学校[専門学校])。
	その他の特徴 コメント		：軽自動車の人気車種のモデルチェンジが予定されているため、大いに期待している(乗用車販売店)。 ：夏場の日照不足の影響で農作物の不作を懸念している。農家の収入が減少し、冬の商戦時にあまりお金を使わなくなるのではないかと(衣料品専門店)。	

( D I )

図表15 現状・先行き判断D I (東北)の推移(季節調整値)





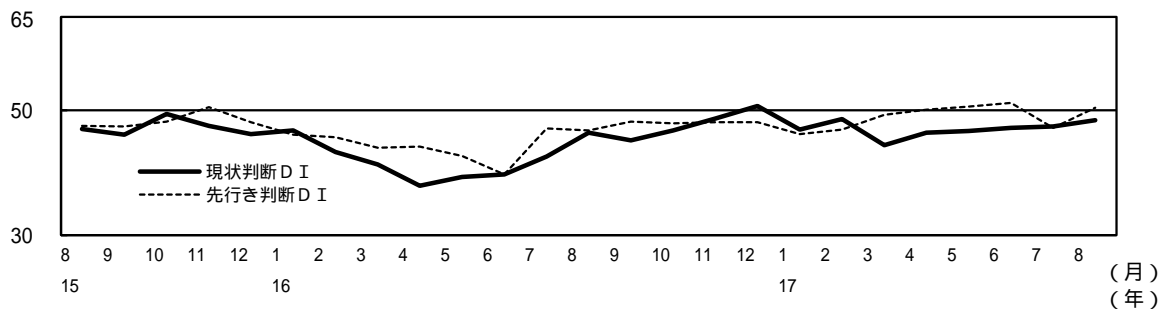
3. 北関東

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

		分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連			・食料品、化粧品等の消耗品は堅調に推移している。依然として衣料品の不調が目立ち、ここ数か月、大きな変化はみられない(百貨店)
				・宿泊間際の予約が全く伸びなかった。梅雨明けからの長雨やゲリラ豪雨と、この夏は悪天候に影響を受けている(観光型ホテル)
				・レストランの来客数、売上共に前年同期に比べて1割程度良い。宴会売上件数は減少している。お盆休みの天候不順により観光地へ出掛けなかった客が地元での外食にお金を使ったようである(一般レストラン)
	企業 動向 関連			・安定した状態が続いており、仕事の確保は出来ている。ただし、長期的な生産はない(電気機械器具製造業)
				・ボリュームはまだ不足しているが、自動車試作案件では、短納期の仕事が増加してきている。また、建設機械関連の仕事は比較的、高水準の受注を確保できている(一般機械器具製造業) ・お盆休みが長かったせいか、広告ツール等の制作期間が延びていて、今月納品ができないケースが増えている。売上計上は納品ベースのため、8月の売上としては前年より5%程度低くなっている(広告代理店)
			×	
雇用 関連			・多職種にわたり求人企業、人数が増えてきている。また、高校生に対する求人数も増えてきている(学校[専門学校]) ・3か月連続で、前月に比べて求人数は増えてきているが、前年同月比では2か月連続の減少である(職業安定所)	
			・電機、電子、自動車関連部品等の製造は、休みがあり、多少生産は落ちている。ただ、在庫を調整している業種なので、さほど影響はなかったのではないかと。天候不順の影響は、青果や魚、衣料品といったところでもかなり目立って、厳しいという声が聞こえている(人材派遣会社)	
		その他の特徴 コメント		：製造業を中心として求人数が増加傾向にあり、求人倍率も高水準で推移している。また、企業から人手が足りないとの声も多く聞いている(職業安定所) ：被害はないものの、雨の日が多く、キャンセルが多数発生している。また、日照不足のため、芝の発育不足と病気が発生している(ゴルフ場)
先行き	家計 動向 関連	分野	判断	判断の理由
				・この1~2か月、販売や修理在庫が好調に推移している。これ以上良くなる要素は見当たらないので、現状ですと推移していくのではないかと(乗用車販売店) ・気温の低下と共に単価は低くなるため、やや悪くなる(コンビニ)
	企業 動向 関連			・今後は通常の季節替わりにより、こたつ、ヒーター等の初回輸送が始まる。また、秋の行楽向けのレジャー用品、椅子、シート等の物量が前年並みの輸送量の予定である(輸送業) ・受注予想はそれほど悪くなく、引き合いもあり、多少良くなるとみている(化学工業)
				・景気動向も安定的に続くか分からない現状で、企業の正社員募集は慎重になっている(求人情報誌製作会社)
			その他の特徴 コメント	

(D I)

図表16 現状・先行き判断D I (北関東)の推移(季節調整値)

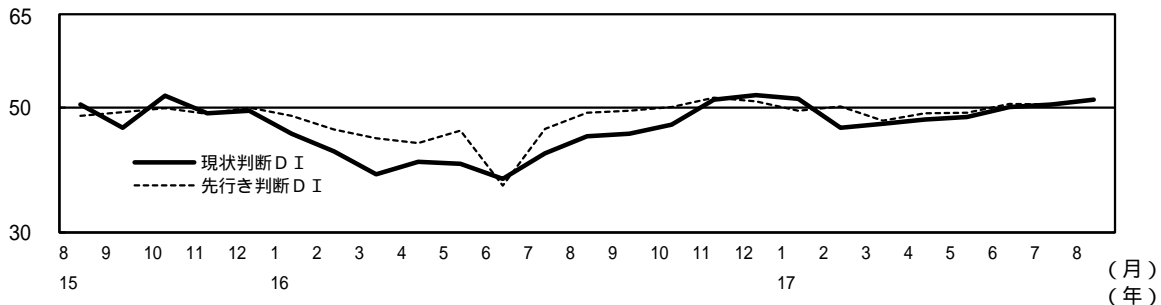


4. 南関東

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

		分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連			・売上、販売量からみると、3か月前から現在に至るまで、やや良い状態で推移している。単価の動き、客の様子、競合相手などの状況も、大きな変化はみられない(その他専門店[貴金属])。
				・冷夏の影響により、夏物の需要が低下し、売上、来客数共に苦戦をしている(衣料品専門店)。
				・クリアランスセールが終了しても、高額品から日用品までまんべんなく動いているということが、明るい材料として考えられる(百貨店)。
	企業 動向 関連			・受注量は順調に増加傾向にあるが、人手不足のため納期対応に支障が出始めている(プラスチック製品製造業)。
				・金属加工、中小企業においては、こここのところ受注も堅実で、数年ぶりのボーナスを多少なりとも支給できる会社が出ている(経営コンサルタント)。
				・ウェブ主体の流れで紙ベースの物は減少してきている(出版・印刷・同関連産業)。
	雇用 関連			・直接雇用のニーズがますます高まっている。採用難からニーズも幅広さが出てきているが、依然として人材は他の求人との争奪戦になっているため、成約数が伸び悩んでいる(人材派遣会社)。
			・周辺企業から、中途採用で雇用が増えているという話をよく耳にする(求人情報誌製作会社)。	
	その他の特徴 コメント		: 8月は天候不順であったが、多くの祭事を開催でき、景気も盛り返している(一般小売店[祭用品])。 : 東京オリンピック、パラリンピック周辺施設の開発案件について施工時期を迎えている。これに伴い、新規の関連再開案件や物流施設案件についても、業界各社共に今後更に好転の見通しとなっている(住宅販売会社)。	
先行き	家計 動向 関連			・4Kテレビの価格が普及段階に入る年末までは、家電の大きな需要は見込めないであろう。期待される各社新製品にインパクトがなければ、需要は伸びない(家電量販店)。
				・天候不順による一時的な売上低下が改善されれば、前年と同程度の売上傾向で推移する(コンビニ)。
	企業 動向 関連			・仕事を取り巻く環境において、大きな変化の兆しはない(その他製造業[靴])。
				・昨今、豪雨など自然災害が続くなかで、雨水対策などの設備投資を優先する企業が増えており、発注額も増えてきている。また、相変わらず人手不足が続いており、人件費が上がるにつれ見積額も上がっているのが現状である(建設業)。
	雇用 関連			・企業の求人意欲は旺盛で、今後も新規求人数は横ばいで推移するとみている(職業安定所)。
	その他の特徴 コメント		: 一時的な傾向に見えるが、需要増の話が増えており、建材の引き合いが実際の注文に結び付いている(その他住宅[住宅資材])。 : 消費者の節約志向は根付いており変わらず、消費を後押しするような政策もないため、しばらくは同様の状態が続く(スーパー)。	

( D I ) 図表17 現状・先行き判断D I (南関東)の推移(季節調整値)

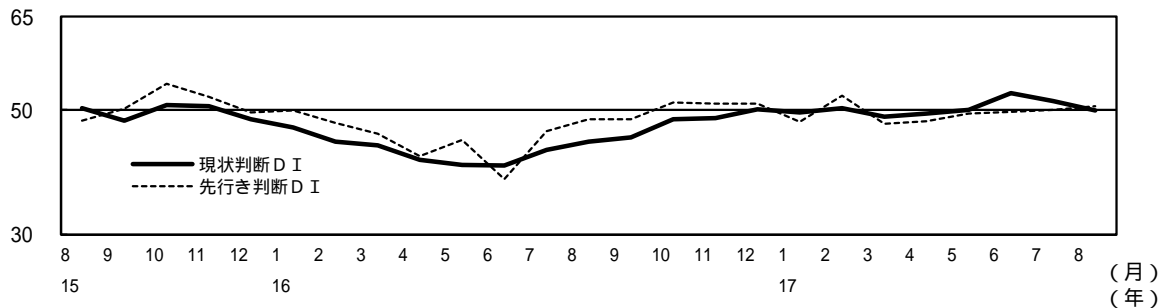


5. 東海

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・高額品が好調で客単価は上昇してきている。売上は前年同期並みだが、販売量はやや減少傾向にある(百貨店)
			・8月は荒天が続き、来客数、売上共に前年同月比で大きく減少している。3か月前と比べても悪くなっている。ただし、減少幅が拡大した原因は雷雨の影響が大きく、景気としては、やや悪くなっているという状況である(ゴルフ場)
			・8月は人の流れが良く、単価の高い商品の動きもスムーズである。来客数も多い(スーパー)
	企業 動向 関連		・受注量が横ばいで、受注単価も相変わらず低い(金属製品製造業)
			・通信・放送業界の設備投資意欲は高い。受注競争は厳しく個別では適正利益が得られない案件もあるが、受注総量で何とか利益を確保している(電気機械器具製造業)
	雇用 関連		・全国の1日当たりの取扱物量が、お盆明けから減少しており、3か月前にはなかった傾向がみられる。8月は閑散期ではあるが、例年にはない傾向にある(輸送業)
			・来春の高校卒業者の求人は、過去最高を更新している。中途採用の求人数も増加が続いているが、条件の改善は進んでいない(職業安定所)
	その他の特徴 コメント	・管理職やキャリア層の採用が増加しており、今後の事業拡大を見据えた企業の動きがみられる(人材派遣業)	
			：景気が明確に上向いているという材料は見当たらないが、消費者の購買意欲は決して低調ではなく、コストパフォーマンスで納得できる商品に対しては、高額でも購入する。ドイツ製の高級車をよく見かけるようになってきている(化学工業) ：北朝鮮のミサイル問題の影響で、秋から冬に計画されていた大型のグアム団体旅行が2つ中止になり、約1,000名分、1億円の取扱がなくなった。ミサイルが業況を直撃した状態で、足元の収支が急激に悪化している(旅行代理店)
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計 動向 関連		・理由ははっきりしないものの、7～8月と売上が良く、先行きも引き続き好調が見込まれる(家電量販店)
			・世情が不安定になる材料がたくさんある(都市型ホテル)
	企業 動向 関連		・受注量、販売量はある程度確保しているが、原材料が値上がりしても製品価格への転嫁がかなり難しく、収益面で苦戦する(パルプ・紙・紙加工品製造業)
			・客先では業績が好転する業種が増えてきている(会計事務所)
	雇用 関連		・上期での採用不足分を積極的に充足する企業も出てくるが、転職希望者の状態は変わらない(民間職業紹介機関)
	その他の特徴 コメント	：車を購入する際は現金一括払いの客が多く、ローンの場合も頭金の額が多くなっている。金利の低い預金をするより燃費の良い車に買換えて維持費を節約しようという客もいる。客の動きをみていると、少し期待できる。懸念されていた工場への入庫数も、予定以外の入庫もかなりあってうれしい想定外となっている(乗用車販売店) ：飲料業界においては、夏の売上によって年間のボーナスに影響があるため、受注数が伸びないと厳しくなる(食料品製造業)	

( D I ) 図表18 現状・先行き判断DI(東海)の推移(季節調整値)



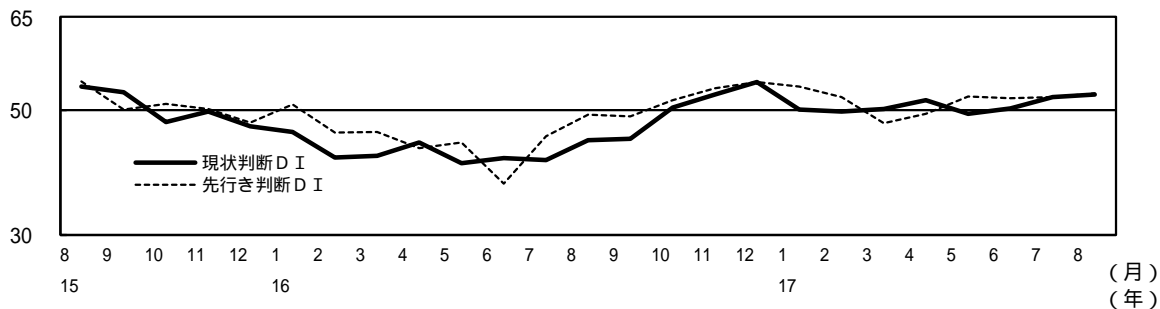
6. 北陸

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・曜日などの影響もあるが、お盆商戦の来客数は前年並みである。しかし、客単価は前年を超えていない(スーパー)。
			・お盆の動きが良かったため、多少良い方向に向かっている(一般小売店[精肉])。
			・夏休み期間の来客数増加やお盆需要による販売量増加を期待したが、例年にないほど来客数の減少が大きい(住関連専門店)。
	企業 動向 関連		・衣料分野については4～6月に比べて改善がみられるものの、一部の大手サプライチェーンの商品を除いて国内、輸出共に受注確保に苦労している(繊維工業)。
			・物流量は増加していないが、人手不足が深刻化して輸送コストが見直されることで、徐々に運賃是正の成果が出ている(輸送業)。
雇用 関連		・同業者から聞いた話では、今は動きが少し止まっているということと、法人関係からの問い合わせが止まっているということから、やや悪くなっていると回答した(不動産業)。	
		・7月の雇用統計では、新規求人数がやや減少という数字が出ている。フルタイムとパートタイムが共にわずかながら減少という動きである。しかし、全体的にみると高止まりの横ばい状態と言える(職業安定所)。	
その他の特徴 コメント			・人材紹介と派遣契約の受注数が、共に減少気味である。3～4か月前より3割方減っている(民間職業紹介機関)。 ：夏休みの時期であり、家族で出かける客が多くみられる。また、いろいろな催物もあって人出が多い。特にお盆を中心にタクシー利用客が多く、猛暑の影響もあって利用増につながっている(タクシー運転手)。 ：5～7月にかけては梅雨の時期も含めて比較的天候が良く、観光客の動きも良かったが、8月は例年と比べて非常に雨が多かったため、観光客の動きが鈍かったようである。また、現在は有効求人倍率が非常に高く、採用は困難となっており、そうした面でも営業にやや影響が出てきている(テーマパーク)。
先行き	家計 動向 関連		・マイナス要因として日経平均株価が下がってきており、富裕層の美術品や高級輸入時計などの購買意欲に影響が出ないか心配である。一方で、8月は徐々に婦人ファッションの晩夏、初秋物の動きが好調に推移しているため、秋冬物商戦全体としては変わらない見込みである(百貨店)。
			・お盆後の売上が低迷している(コンビニ)。
	企業 動向 関連		・引き続きコンビニエンスストア向けの商材が好調をキープできそうではあるが、今以上に良くなるとは考えられない(食料品製造業)。
			・これから工事が発注される時期になり、そこそこの期待はできる(建設業)。
	雇用 関連		・求人があっても求職者数が少ないため、マッチングの成立が難しい(人材派遣会社)。
その他の特徴 コメント			：前年から引き続き、欧州向けを中心に海外需要が旺盛である。月ごとに先の受注が上乘せされていく状況が続いている(一般機械器具製造業)。 ：外食産業では、慢性的な人手不足による人件費高騰に加えて、秋から来春にかけて原材料が値上げとなる見込みである。また、宅配便の料金改定などコストアップ要素が多い。しかし、売上高や来客数が下がることを考慮すると、価格改定には踏み切れない。売上高が上がっても期待するような利益が残らない(一般レストラン)。

( D I )

図表19 現状・先行き判断D I (北陸) の推移 (季節調整値)

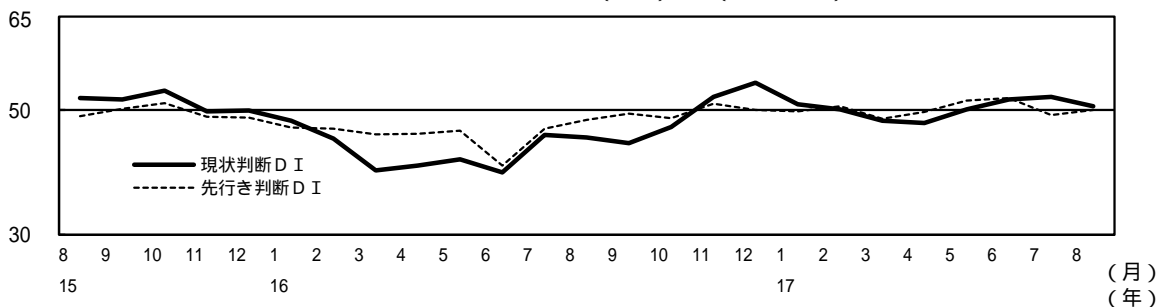


7. 近畿

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

分野		判断	判断の理由	
現状	家計動向 関連		・ 来客数は減ったが、単価が伸びたため、全体としては横ばいである。要因としては、電子たばこの販売の好調が挙げられる(コンビニ)。	
			・ 8月に入り、料飲施設の来客数が増加傾向にある。また、宿泊に関しても、客室単価の伸びはないものの、稼働率は高水準で推移している(高級レストラン)。	
			・ お盆が終わり、エアコンなどの主力商品の販売量が大幅にダウンしている(家電量販店)。	
	企業動向 関連		・ 官庁、民間関係共に、厳しい価格競争が続いている。建設業は全般的に好調といわれているが、東京近辺の話であり、地方では実感がない(建設業)。	
			・ 単価の高い有機ELテレビが数社から発売され、実売金額ベースでは、空気清浄機を上回る推移をみせている。エアコンは前年を割り込んだ荷動きとなっているが、冷蔵庫や全自動洗濯機などの大型商品は、前年を上回る動きとなっている(電気機械器具製造業)。 ・ 年末商戦に向けての案件では、大手企業が低い金額のコンペにまで参加してきており、価格競争が加速している(広告代理店)。	
		×	・ 景気回復の実感がない(その他非製造業[電気業])。	
	雇用 関連		・ 製造業や運輸業の新規求人数が引き続き好調を維持しており、足元では情報通信業の求人が増えている。人工知能やIoTの技術革新が進むなか、これまでは東京一極集中の感があったIT技術者の求人が、幅広く出てきている(職業安定所)。 ・ 相変わらず人手不足の状況は変わらないが、派遣社員として働く人の年齢が、かつては20~30代であったが、今は40~50代となっている。企業側も年配者の受け入れを容認してきていることから、働く場所の拡大が景気の浮揚につながる可能性もある(人材派遣会社)。	
	その他の特徴 コメント			：引き続き、富裕層を中心とした高額商品の動きが良い。また、客単価が高いインバウンド消費も継続的に伸びている(百貨店)。 ：北朝鮮のミサイル問題によるグアム旅行のキャンセル、インバウンド急増によるホテルなどの宿泊施設不足、インターネット業者の台頭による客離れと、トリプルパンチを受けている(旅行代理店)。
	先行き	分野	判断	判断の理由
家計動向 関連			・ これまでは、外国人観光客による貸切りのハイヤー需要があったが、公共交通機関を利用した観光にシフトしている(タクシー運転手)。	
			・ 新たな加入コースを9月からスタートさせる。徐々に認知度が上昇すれば、3か月後には販売状況が改善すると期待している(通信会社)。	
企業動向 関連			・ 北朝鮮による地政学リスクが一掃されなければ、株価が2万円を超えて、更に上昇する動きにはならない。今後もすっきりしない景況感が続きそうである(金融業[投資運用業])。	
			・ 猛暑も少し落ち着いてくると思うが、この先も異常気象が続くようであれば、農水産物の販売不振など、今後の状況が不安である。一部の農産物は豊作と聞くが、全体としては値上げの方向に動いている(食料品製造業)。	
雇用 関連			・ 建設日雇い求人では、社会保険加入の義務化と雇用保険適用の厳格化の影響で、現場の混乱と雇用の抑制が続いている。また、事業所からは、人手不足で新規事業に手が出せないとの声が寄せられている(民間職業紹介機関)。	
その他の特徴 コメント			：高級車市場の活性化を受けて、大衆車市場も盛り返してくる(乗用車販売店)。 ：関東方面がずっと雨であったため、野菜の値上がりが続く可能性もあり、その場合は厳しい(スーパー)。	

(DI) 図表20 現状・先行き判断DIの(近畿)推移(季節調整値)

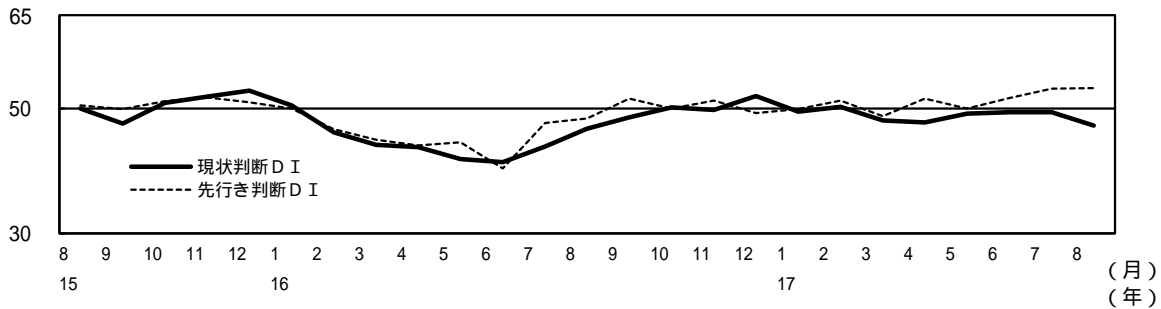


8 . 中国

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・大型のトピックスもなく、来客数に変化はなく、他キャリアとの競争も以前ほど厳しくない(通信会社)。
			・売上は何とか前年をクリアしているが、天候不順で来客数が減少し、冷たい麺の動きも悪くて売上が伸びない(コンビニ)。
			・夏休みの催事で来客数が前年の103%になっており、上層階に配置した催事場から下層階の売場に客が買い回るシャワー効果で、売上高も前年をクリアする見込みである(百貨店)。
	企業 動向 関連		・技術職は継続的に繁忙な状態が続き、予定物件も多少の前後はあるが順調に受注できている(建設業)。
			・通信販売関係の荷主とは運賃の値上げ交渉をしており、商流貨物はほぼ横ばいで、個人荷主の発送が減少している(輸送業)。
	雇用 関連		・夏の販売促進での受注が増えており、3か月前から上向きに進行している(広告代理店)。
			・新規求職者数が増える傾向である年度初めの3か月前との比較では新規求職者数は10%減少しているが、例年どおりの動きである(職業安定所)。
その他の特徴 コメント			・8月より求人広告の新商品を立ち上げたが、予想を上回る掲載社数となっている。求人広告の効果の有無はともかく、あらゆる募集活動を継続して行わないと人材確保が難しいとのコメントが企業から聞かれる(新聞社[求人広告])。
			：野菜の価格が高いにもかかわらず、販売点数は1%程度上昇している。乳飲料や冷蔵もそこそこの動きを示しており、売上高も前年をクリアしている(スーパー)。 ：例年に比べ来客数は少なく、他社との競合で値引き条件も厳しくなっているため、成約も少なく内容も悪くなっている(乗用車販売店)。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計 動向 関連		・客の給与が急激に上がることがなければ、客の節約志向は続く(美容室)。
			・秋に向かって天候が落ち着き、観光客数が増えて消費動向が改善する(商店街)。
	企業 動向 関連		・為替が安定するなかで、地元の大手自動車メーカーでは新型スポーツ用多目的車の海外販売が好調であり、当面は系列自動車部品メーカーの受注は高水準を維持する(金融業)。
			・建設業関連は受注が徐々に増加しており、地場大手メーカーが秋口以降生産設備を増強する計画も出ているので、需要が見込める(会計事務所)。 ・製造コストや人件費など利益が減少する要素はいくらでもあるが、利益が増加する要因は何もない(その他製造業[スポーツ用品])。
雇用 関連		・工場新設のための大幅増員、将来の株式上場に向けての管理部門強化など企業の投資意欲が高まってくる(民間職業紹介機関)。	
その他の特徴 コメント			：売上は前年並みで、利益確保もできている状態であり、販売量と価格が下がることは当面ないので景気は良くなる(化学工業)。 ：不穏な海外情勢や国内政権の信頼失墜など、景気回復への施策展開に向けた気配はなく、物価高や保険料などの値上げも影響して消費マインドの低迷は続く(都市型ホテル)。

( D I ) 図表21 現状・先行き判断 D I (中国) の推移 (季節調整値)

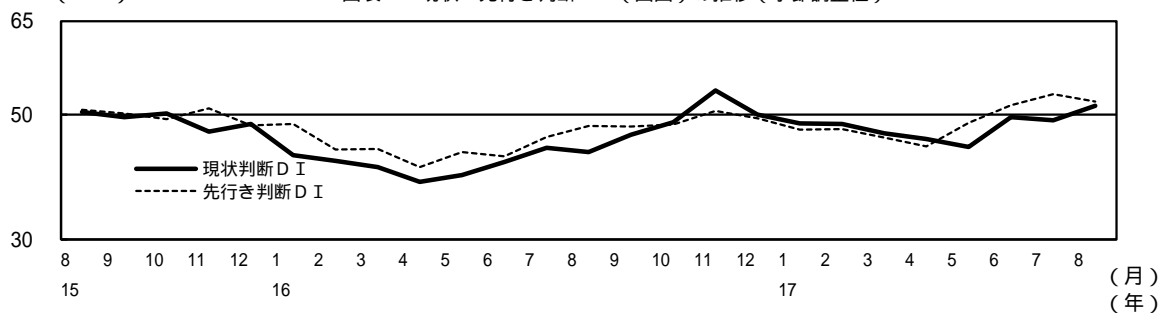


9 . 四国

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

	分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・小型車、軽自動車共に前年を上回っているものの、買い回りのユーザーも少なく、購買意欲は低い(乗用車販売店)。
			・消費者の購買及び消費意欲が減少している様に感じられる。値段を比べ、コストパフォーマンスを吟味して、有効に消費しようとしている様に見受けられる(商店街)。
			・今年は盆前から客が増えており、お盆を過ぎても満室が続いている。過去に例がないほど来客数が増加しているのは、景気が良くなったからではなく、休みを取らせようとする国の政策が反映されているためではないか(観光型旅館)。
	企業 動向 関連		・農産物は天候の影響を受けやすい。今月は入荷量が減少して値上がりした品目があったが、全体としては変わらない(農林水産業)。
			・太陽光発電設備の受注が好調で、フル操業が続いている(電気機械器具製造業)。
	雇用 関連		・天候不順により東日本の農産物の卸値が上昇したこと、飲料などの季節商材の売行きが鈍いこと等から、取扱物量が前年比2割ほど減少した。取扱物量が減少したのは、多くの家庭が夏休み期間中のレクリエーションを近場で済ませ、購買意欲の低下による消費低迷につながったと推察する(輸送業)。
			・製造業を中心に人手不足感はあるが、新卒採用に消極的な企業もある。新卒者を何年も掛けて育てる余裕が無く、即戦力になり得る中途採用を考える企業が多い(民間職業紹介機関)。
	その他の特徴 コメント		・業務繁忙に伴う派遣社員の増員について、足踏み感はなくなってきている(人材派遣会社)。
			・広告出稿に慎重になっている企業が多い。財務体質が改善しても広告出稿には結びつかない(新聞社[求人広告])。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計 動向 関連		・天候や気温に大きく左右されるが、前年と同じなら、景気が良くなる要因は全くない(コンビニ)。
			・お盆を過ぎると売上が激減する。その反動で3か月先は良くなる(その他専門店[酒])、悪くなっている一番大きな原因は、大型ショッピングモールのオープンである。ただ、その悪影響も相当剥落してきてはいる(衣料品専門店)。
	企業 動向 関連		・取引先企業の資金需要動向は、運転資金、設備資金ともやや弱含みな印象である。足元の業績に変化が見られないことから、景気にも変化はない(金融業)。
			・インバウンド需要は引き続き旺盛である。東京などへは欧米からのリピーターが増えており、商品価値をしっかりと提案することが彼らの消費行動を満足させられる。まだまだ需要は伸びる(繊維工業)。
雇用 関連		・人材採用に苦戦している企業の景気は厳しいが、一方で採用に予算と労力をかける企業は改善の見通しが立っており、全体で見ると横ばい(求人情報誌)。	
その他の特徴 コメント			：地元での国体関連で売上増を期待しているものの、国体終了後を心配する経営者もいる。なかなか景気が一気に上向くとは考えていないようだ(公認会計士)。 ：乗客の声を総合すると、給料等は上がっていないようだ。イベントの多い8月、9月を過ぎると、景気はやや悪くなる(タクシー運転手)。

( D I ) 図表22 現状・先行き判断D I (四国)の推移(季節調整値)

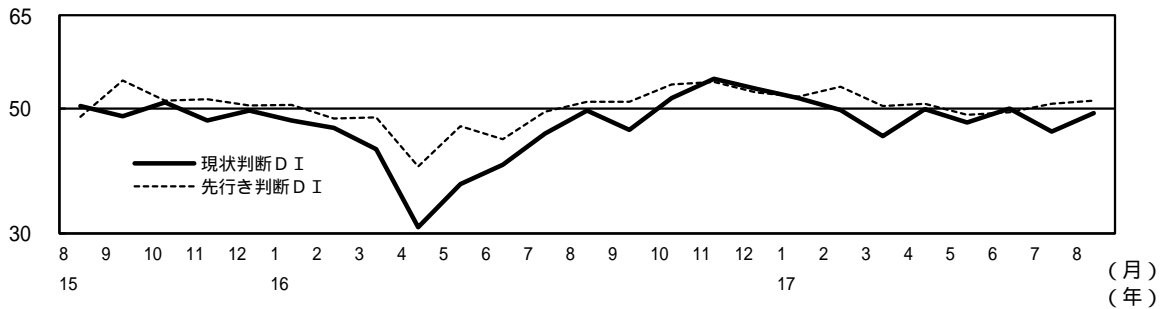


10.九州

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

分野		判断	判断の理由	
現状	家計 動向 関連		・今年度になり新車販売台数が毎月前年を上回っている。8月も計画には届かないが前年実績は上回る見込みである(乗用車販売店)。	
			・残暑は厳しいものの、台風以降季節商材の需要が落ち着き、来客数にも影響してきた(家電量販店)。	
			・上旬の台風の余波と臨時休業により週末の来客数が減少したが、平日は好調であった。台風の影響を除くと、来客数及び売上の伸び率は好調であった。また、購買客数・売上単価も堅調となった。外国船入港により外国人観光客も売上に貢献した(百貨店)。	
	企業 動向 関連		・8月は例年お盆需要で売上も大きく伸びるが、今年はお盆前に台風が来て1日工場を休まなければならなかったため、例年より1日分だが大きく落ち込んでいる。他の居酒屋、加工製造会社などについては計画どおりに動いている(農林水産業)。	
			・例年8月の受注はお盆休みの影響で落ち込むが、今年は前月と同じ、もしくはそれ以上の見込みである(一般機械器具製造業)。	
			・建設コンサルタントや調査会社に対する市町村の委託業務は、6月補正予算で計上されているところが少なく、業務量も少ないため、入札時において、低価格競争になっている。この時期になると辞退するところや入札価格を高めにして応札する会社が多くなるが、まだ、安く入札する傾向にある(その他サービス業[コンサルタント])。	
	雇用 関連		・引き続き求人数の増加がみられ、管内の有効求人倍率は高い水準で推移している(職業安定所)。	
			・出演者の派遣を行っているが、CMの出演者手配の依頼が増えた。予算的に高くはないがCMを制作する企業が若干増えてきている(人材派遣会社)。	
	その他の特徴 コメント			：夏期休暇・お盆に伴い町内全体的に混雑した。駐車場も臨時を設けても足りない状態であった(観光名所)。 ：北朝鮮情勢も半ば慣れてきた感があり、韓国方面への需要が回復傾向にある。国内では、関西のテーマパークが好調だが、京阪神、東京は一昨年並みには戻っていない(旅行代理店)。
	先行き	家計 動向 関連		・まだまだ暑い日が続き、商品管理が大変である。タイムセールを行っているスーパーマーケットやコンビニエンスストアなどに客を取られ、商店街は良くない(商店街)。
			・毎年、秋口から春にかけて徐々に契約数が伸びる傾向にあるが、今年は集合住宅のインターネット無料化工事の受注が前年よりも多くなる(通信会社)。	
企業 動向 関連			・年末前の落ち着いた時期で、あまり大きな動きはない(その他サービス業[物販リース])。	
			・受注先工場の工事関係で、受注量が増え生産量が増加している(精密機械器具製造業)。	
雇用 関連			・派遣案件は減少する様子はないが、登録者の確保に苦労している(民間職業紹介機関)。	
その他の特徴 コメント			：スクラップ価格が高騰しているが、それに伴い販売価格も改善してきており、今後も価格は上昇する見込みである。建築物件のみならず土木物件も動き出し受注量も回復してきた(鉄鋼業)。 ：客の購買意欲は依然として上昇してこない。一方、競合他社の出店により価格競争が激しくなり、売上の確保がますます厳しくなる(スーパー)。	

( D I ) 図表23 現状・先行き判断D I (九州)の推移(季節調整値)



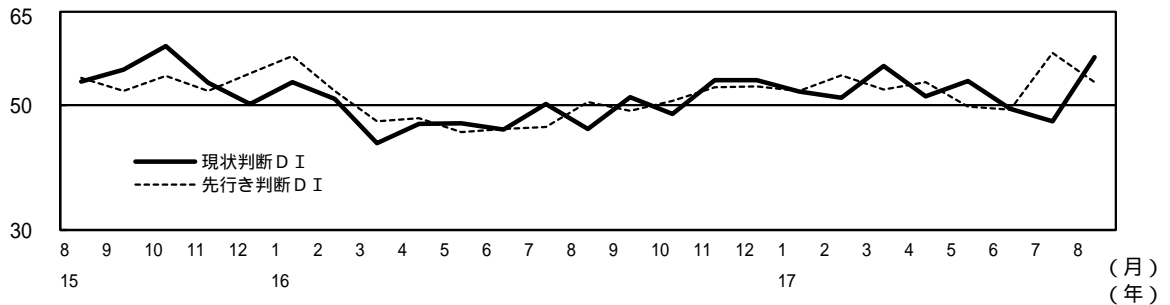


11. 沖縄

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

	分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・例年だと8月は動きがあまり良くないが、それでも受注はまずまずである。高級ブランドの受注が非常に良い(乗用車販売店)。
			・予約件数が前年同期比で108%となっている。観光客の利用が好調に推移している。県内入域観光客数が伸びているものと推測される(その他のサービス[レンタカー])。
			・客室稼働率において、実績の前年同月比は3か月前と比べて下回っている(観光型ホテル)。
	企業 動向 関連		・新築及びリフォーム共に、契約件数が少ない(建設業)。
			・3か月前より売上高は良くなっている(食料品製造業)。
	雇用 関連		・新規企業からの求人と、業界問わずIT職の求人が増えてきた(学校[専門学校])。
		・8月は猛暑の影響もあるのか、例年以上に求職者の動きが悪かった(人材派遣会社)。	
	その他の特徴 コメント		・8月度の求人件数は週平均919件で、3か月前と比較すると160件マイナスだった。毎年8月は減少傾向となる(求人情報誌製作会社)。 ：今年は旧盆の時期が前年より後にずれたことにより、8月がピークとなっている。衣料品は婦人物は苦戦しているが、紳士物のかりゆしウェアやバッグ類など、地元客の購買が高い。インバウンドによる化粧品の購買力も引き続き好調となり、店全体を押し上げている(百貨店)。 ×：商店街では集客力が弱まっている。クルーズ船の観光客は歩いているが、売上には結び付かないようで、特に衣料品関係は危機感を抱いている(商店街)。
先行き	家計 動向 関連		・マイホーム建築費や土地価格が値上がりしているなか、住宅ローン金利が低く推移しているため、住宅展示場への来場者数は前年同月比で増えている(住宅販売会社)。
			・年末に向けて、季節限定商材をこれまでよりも数量、販売先共に増やしていく予定である(一般小売店[菓子])。
	企業 動向 関連		・徐々に県内企業の販促活動が動き始め、若干ではあるが受注量も上向き傾向にある。一方、観光を中心とする官公庁の誘客予算が減少する傾向にあることから、全体としては若干マイナスに転ずる可能性もある(広告代理店)。
			・生コンは離島のホテル等、リゾート関連の民間工事で動き出しており、公共工事で出荷は増勢となっている。アスファルトは現状は農道舗装等が低迷しているが、クルーズ船対応の岸壁工事が予定されており先々は期待できる。ただし、ある島では低迷が長引き、生コン会社が1件廃業となった(輸送業)。
	雇用 関連		・学生が夏季休暇中ということもあり、求人数は少し緩やかになっている。夏季休暇明け、10月の後期開始に向け少しずつ増えてくることを期待したい(学校[大学])。
	その他の特徴 コメント		：競合店出店の影響を回復させることは簡単ではないことや、1品単価の低下もしばらく続いていることから、厳しい状況は変わらない(スーパー)。 ：今年は旧盆が9月にずれ込み、お中元商戦がやや長いように思える。それが終わると中だるみ的な要素が加わり、その結果落ち込むと予想される(食料品製造業)。

( D I ) 図表24 現状・先行き判断D I (沖縄)の推移(季節調整値)

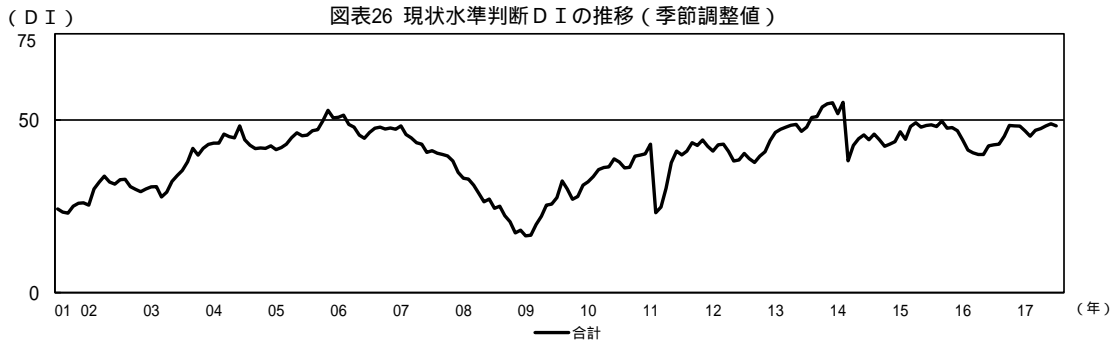


(参考1) 景気の現状水準判断D I

現在の景気の水準自体に対する判断は、以下のとおりであった(注)

図表25 景気の現状水準判断D I (季節調整値)

(D I)	年 月	2017 3	4	5	6	7	8
合計		45.3	47.0	47.5	48.3	48.9	48.3
家計動向関連		43.1	44.9	44.6	45.3	46.5	45.6
小売関連		39.9	41.9	41.8	42.8	45.0	43.7
飲食関連		44.8	44.2	46.5	46.2	45.3	45.7
サービス関連		48.6	50.5	49.4	49.1	49.0	48.7
住宅関連		44.1	47.7	45.5	49.9	50.6	49.1
企業動向関連		46.7	47.8	51.6	52.2	50.9	50.9
製造業		45.2	47.3	49.9	52.5	50.5	51.2
非製造業		48.3	48.2	53.3	52.4	51.2	50.8
雇用関連		57.1	58.9	57.6	59.4	60.6	60.4



図表27 景気の現状水準判断D I (各分野計)(季節調整値)

(D I)	年 月	2017 3	4	5	6	7	8
全国		45.3	47.0	47.5	48.3	48.9	48.3
北海道		47.1	47.0	50.3	48.3	49.9	47.9
東北		42.9	45.0	43.0	46.1	48.3	43.4
関東		43.8	44.9	45.4	46.1	47.1	47.4
北関東		41.0	43.7	43.3	44.4	44.5	44.8
南関東		45.5	45.7	46.6	47.1	48.7	49.1
東京都		46.3	47.8	49.3	50.4	53.4	52.8
東海		46.0	48.5	49.0	49.3	51.5	48.8
北陸		50.5	49.5	50.6	47.7	50.8	52.4
近畿		46.5	47.1	48.8	50.3	50.7	49.2
中国		47.1	48.8	48.7	48.9	47.3	48.5
四国		43.1	46.2	43.9	44.2	47.1	49.7
九州		43.6	50.1	45.4	48.6	48.6	47.8
沖縄		55.9	56.5	55.9	51.7	50.1	57.3

図表 28 景気の現状水準判断 D I (原数値)

(D I)	年 月	2017 3	4	5	6	7	8
合計		48.4	48.9	48.3	48.5	49.8	48.2
家計動向関連		46.5	47.0	45.9	45.8	47.7	45.8
小売関連		42.9	43.8	43.7	43.6	46.2	43.9
飲食関連		49.7	46.7	46.9	47.3	46.9	45.2
サービス関連		52.5	52.7	50.0	48.8	50.3	49.0
住宅関連		46.8	50.0	46.1	50.3	50.7	49.0
企業動向関連		49.3	49.8	50.9	51.8	51.4	49.9
製造業		48.4	49.7	48.9	51.5	50.7	49.9
非製造業		50.7	50.0	52.8	52.6	52.0	50.1
雇用関連		59.6	60.1	58.2	58.8	60.5	59.9

図表 29 景気の現状水準判断 D I (各分野計)(原数値)

(D I)	年 月	2017 3	4	5	6	7	8
全国		48.4	48.9	48.3	48.5	49.8	48.2
北海道		48.0	48.0	50.9	50.4	53.1	50.0
東北		46.2	46.8	45.1	47.2	49.5	43.8
関東		46.5	47.1	47.0	47.0	48.3	47.1
北関東		43.6	45.3	44.8	45.2	46.0	45.1
南関東		48.2	48.2	48.3	48.0	49.6	48.3
東京都		49.3	50.9	50.9	51.4	54.3	51.6
東海		49.7	49.8	48.9	50.3	51.9	48.3
北陸		52.9	51.9	52.1	48.9	51.6	52.3
近畿		49.4	49.4	49.6	49.7	51.1	49.5
中国		49.6	50.0	50.1	49.7	48.5	48.6
四国		47.0	48.3	43.9	44.6	48.6	49.2
九州		48.4	51.1	47.7	48.8	48.5	47.4
沖縄		58.8	57.1	55.6	51.3	51.9	58.3

(注) 景気の現状をとらえるには、景気の方加性に加えて、景気の水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

(参考2) 区分変更に伴う参考D I 等

有効回答率

	調査客体	有効回答客体	有効回答率
東北（新潟除く）	189人	174人	92.1 %
北関東（山梨、長野除く）	129人	124人	96.1 %
甲信越	92人	88人	95.7 %

図表30 現状判断D I（季節調整値）

(D I)	年	2017					
	月	3	4	5	6	7	8
東北（新潟除く）		44.9	45.1	45.1	45.4	48.5	44.5
北関東（山梨、長野除く）		45.6	47.7	47.2	47.9	47.9	48.7
甲信越		43.3	46.6	46.2	45.5	48.7	49.2

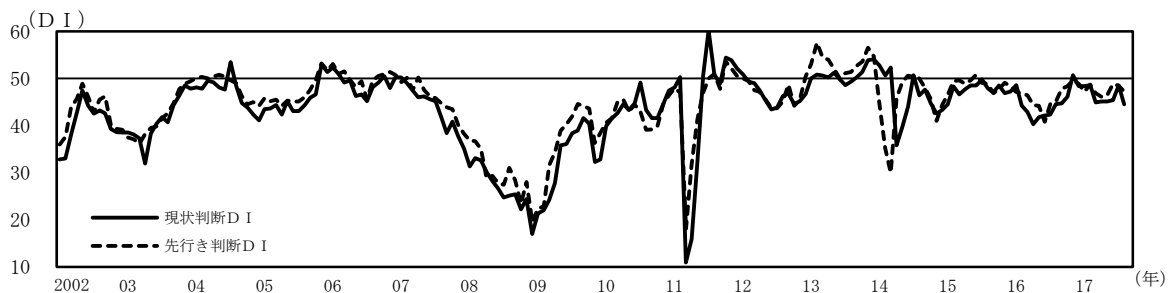
図表31 先行き判断D I（季節調整値）

(D I)	年	2017					
	月	3	4	5	6	7	8
東北（新潟除く）		46.9	46.1	46.4	48.8	48.5	47.2
北関東（山梨、長野除く）		49.2	50.1	48.1	50.5	47.5	50.2
甲信越		48.4	46.6	50.4	50.9	47.8	51.0

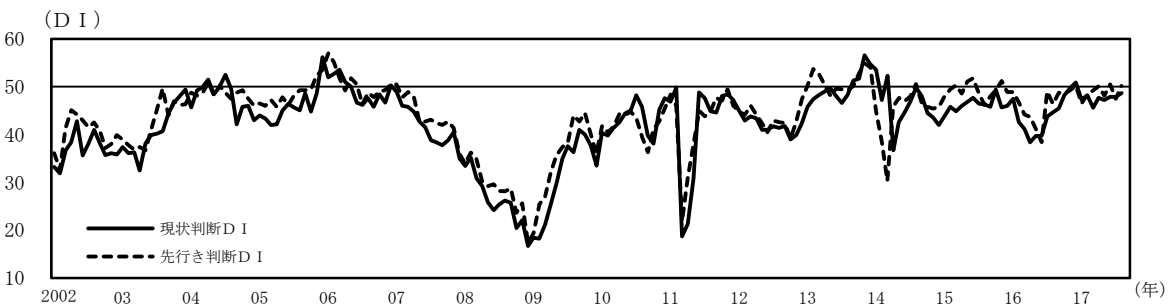
図表32 現状水準判断D I（季節調整値）

(D I)	年	2017					
	月	3	4	5	6	7	8
東北（新潟除く）		43.1	44.9	43.2	46.4	48.3	43.0
北関東（山梨、長野除く）		42.6	46.4	45.3	46.2	44.0	45.3
甲信越		38.9	41.6	41.1	41.4	45.2	43.2

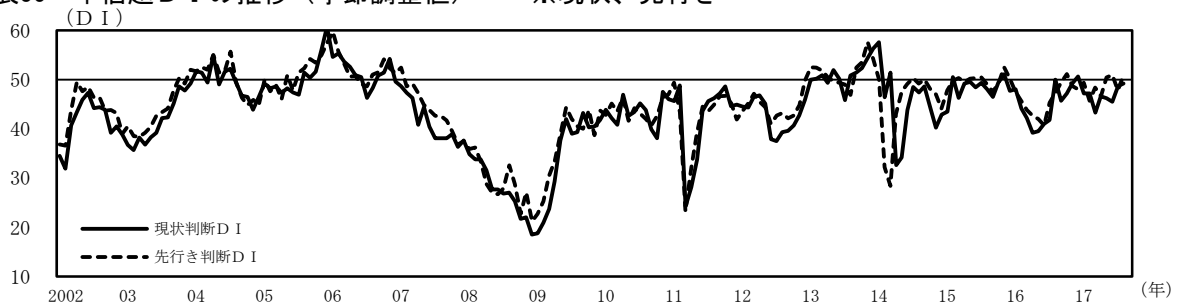
図表33 東北D I（新潟除く）の推移（季節調整値） ※現状、先行き



図表34 北関東D I（山梨、長野除く）の推移（季節調整値） ※現状、先行き



図表35 甲信越D Iの推移（季節調整値） ※現状、先行き



図表36 現状判断D I (原数値)

(D I)	年	2017					
	月	3	4	5	6	7	8
東北 (新潟除く)		48.9	47.5	47.8	46.7	49.4	45.3
北関東 (山梨、長野除く)		47.9	49.8	48.6	47.7	50.0	48.4
甲信越		46.3	50.0	48.8	47.7	51.8	48.9

図表37 先行き判断D I (原数値)

(D I)	年	2017					
	月	3	4	5	6	7	8
東北 (新潟除く)		47.8	47.2	48.4	50.0	48.6	46.0
北関東 (山梨、長野除く)		49.6	52.2	51.2	51.9	48.5	48.6
甲信越		50.6	49.1	52.9	52.3	48.8	50.3

図表38 現状水準判断D I (原数値)

(D I)	年	2017					
	月	3	4	5	6	7	8
東北 (新潟除く)		46.3	46.7	45.1	47.4	49.4	43.5
北関東 (山梨、長野除く)		45.0	47.0	45.9	46.7	45.6	46.0
甲信越		42.0	43.6	43.2	43.1	47.4	44.0

甲信越

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

	分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・天候の関係かもしれないが、来客数が減っている。客単価は特別変わらないので、ひとまずは良いが、客の絶対数が減っており、厳しい(コンビニ)
			・客と不景気な話をすることが本当になくなっている。5年前くらいは、挨拶がわりに不景気で参ったと言っていたが、飲んでいる客の顔も明るくなったし、確実に良くなっている(スナック)
		×	・宿泊間際の予約が全く伸びなかった。梅雨明けからの長雨やゲリラ豪雨と、この夏は悪天候に影響を受けている(観光型ホテル)
	企業 動向 関連		・外国人旅行者も、アジア系、欧米系共に横ばいで推移している。観光のニーズは高いが、小売業は厳しい状況が続いている(金融業)
		×	・商品の動きが悪く、点数が落ち込んでいる(食料品製造業)
			・小規模のものが多く、継続的に仕事を受注できている(建設業)
	雇用 関連		・就業条件が合わず、派遣登録者は相変わらず就職に苦労している(人材派遣会社)
		・製造業では変化の少なかった正社員求人が、パート、契約、派遣等の求人増加に押されてか、やや改善の方向にある。現場系求人の採用未達が続いている(民間職業紹介機関)	
その他の特徴 コメント		：製造業を中心として求人数が増加傾向にあり、求人倍率も高水準で推移している。また、企業から人手が足りないとの声も多く聞いている(職業安定所) ：気候の変動が激しく、今月の夏物家電の売上は期待したほどではなかった(一般小売店[家電])	
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計 動向 関連		・株も若干、下落気味で、天候不順もあり、なかなか良い要素もないが、決して消費マインドが落ちているというわけではないので、現状が続くとみている(百貨店)
			・前年秋も良くなかったが、今年も夏の天候不順などにより、秋の予約が伸びていない(観光型旅館)
	企業 動向 関連		・国内受注は堅調に推移しているが、海外需要に強さがないことに加え、為替が円高傾向にあるため、輸出採算が悪化する可能性がある(一般機械器具製造業)
			・今月中旬から下旬にかけて天候が回復しており、新酒の出来が期待される。また、東南アジア向けの輸出も増加しつつある(食料品製造業)
	雇用 関連		・景気動向も安定的に続くか分からない現状で、企業の正社員募集は慎重になっている(求人情報誌製作会社)
その他の特徴 コメント		：新型車が来月に発表されるため、販売量の増加が期待できる(乗用車販売店) ：夏季オープンした新規施設やイベント実施等により、引き続き多くの来園客を期待する(遊園地)	